

# 都市化地域における農業用ため池整備の環境配慮と住民評価

Environmental Consideration and Resident' Opinion of Reservoir Improvement in Urbanized Area

○杉内 誠\*、石田憲治\*\*

○ SUGIUCHI Makoto\* and ISHIDA Kenji\*\*

## 1. はじめに — 研究の背景とねらい —

都市化地域においては、環境に配慮した農業水利施設の整備・改修により、付帯する遊歩道などの公園的施設の機能とともに、農業水利施設の有する親水や景観等多面的機能の発現が地域住民にとって高く評価されている場合が多い。水面のもつオープンスペースや施設の植栽等が緑地空間として果たす役割も小さくない。

一方、農業農村整備事業の推進においても、環境配慮や非農家住民の意向も含めた整備計画の合意形成が要請され、整備後の維持管理を多様な担い手の参画を得て進めていくためには、都市化地域における農業水利施設の利用実態や施設に対する地域住民の認識状況を把握しておくことが大切である<sup>1)</sup>。

この研究では、混住化が急速に進行して周辺が都市化した地域における農業用ため池の利用実態や環境に配慮した整備内容に対する住民満足度を事例的に分析することにより、都市近郊における農業農村整備事業の環境配慮に関する今後の課題を考察する。

## 2. 対象地域の概況と研究の方法

調査事例とした地区は、ため池オアシス構想に基づいた整備を推進している大阪府南部のK地区である。同地区では、ため池の改修による農業用水の安定的確保、維持管理の改善、災害の未然防止とともに、埋め立てによる公共用地を創出して水辺環境整備が実施された。そこで、この研究では、ため池周辺の住民を対象に、①住民のため池との関わり、②ため池の整備に関する意識や満足度、等をアンケートにより調査した。

アンケートは、ため池周辺の6集落 1,475 世帯に配布し、321 票の有効回答を得た（有効回収率：21.8 %）。アンケートでは、ため池の農業水利以外の利用内容をたずねるとともに、整備施設の写真を提示した上で親しみやすさや安全性などの視点から評価を求めた。これらのアンケートを集計・分析することにより、住民の意識や評価傾向を明らかにした。

## 3. アンケート調査結果とその考察

### (1) 環境に配慮した施設整備に対する地域住民の評価

調査対象としたため池が「農業水利施設であることを知っていた」、「環境に配慮した施設整備をしていることを知っていた」住民は、それぞれ3/4に達した。そして、ため池の農業水利以外の利用内容では、「散歩」、「風景を楽しむ」利用が多く、頻度も高い。

「散歩」については回答者の7割以上が指摘した。整備における環境と農業生産のバランスについては、大半の住民が「両方をバランス」すべき(87 %)と回答し、環境配慮に伴うコストの負担のあり方については、「国や市町村の税金で」が最も多く(69 %)、「地域住民全員の負担」(22 %)がこれに次いだ。「農業者の負担」は9%にとどまっている。

\* 近畿農政局 Kinki Regional Agricultural Administration Office \*\* 農業工学研究所 National Institute for Rural Engineering キーワード：農業水利施設、ため池整備、環境保全、アンケート、住民意識

## (2) 親水整備と安全性確保

写真1と写真2はいずれも事例地区のため池に整備された施設である。アンケートでは、それぞれの写真に回答者の評価を求めた。その結果、100点満点の評価値では、写真1、写真2はそれぞれ平均71.5、70.4で大差がない。しかしながら、さらに環境に配慮すべきかどうかという設問では、写真1に71%、写真2に62%の指摘があり、比較的评价値の高かった施設に対して比較的多くの人から改善が求められている。

そこで、環境配慮について、相対的に多くの問題点を残しているにもかかわらず、写真1の評価が高い理由を考察すると、安全性に関する評価結果の相違が指摘される。安全性に関してプラスの評価を得た割合は、写真1では56%であったが、写真2では45%にとどまっている。すなわち、水上に設置されている施設(写真1)よりも水辺の施設(写真2)の安全性が低い傾向にあり、その理由として以下のことが考えられる。

ため池の周回道路については、原則として水面側のすべてに進入防止の安全柵が設置されており、写真1の施設周辺も同様に安全柵が設置されている。しかしながら、「水辺まで近づける階段」などで構成されている写真2の施設については、水と接するための親水を目的としていることから、このため池関連施設の中で唯一「安全柵」が設置されていないことが確認された。また、水辺周辺に葦などが繁殖していたり、親水空間の位置が周辺の道路より低い位置であることから監視が行き届かない点も安全性の評価が低いことにつながったと判断される。このことは「柵のない所については、不安を感じる」という複数のアンケート回答結果からも裏付けられた。



写真1 休憩スペースのあずまや

写真2 親水広場

photo 1 arbor (rest space beside the reservoir) photo 2 open space close contact with water

## 4. 今後の課題

親水と安全性確保のようにトレードオフの関係になりやすい機能の追求については、ハード面の整備のみでは限界が生じることから、住民の利用意向や維持管理体制の面からも十分考慮することが求められる。特に、農業者の維持管理負担が過剰にならないよう、スポーツや清掃活動の場としてのイベント的な利用を契機として、身近な資源としてため池に住民の関心が向けられるような取り組みが不可欠である。

**引用文献**／ 1) 杉内誠・石田憲治(2004)：農業農村整備における環境配慮に対する住民意識分析、システム農学会秋季一般研究発表会要旨集、71-72.

**謝辞**／ アンケート調査に際して熊取町役場、同町長池オアシス管理会のご協力を得たことを記し深謝する。